



平成 30 年 10 月 31 日

## アート教育の実践と展開についてともに学ぶ研修会 ミエ・アート・ラボ を開催します！

アートが様々な分野に与える効用について、体験をまじえて講師と参加者がともに学びあう研修会『ミエ・アート・ラボ』。

今年は「視点を変える」をテーマに、「教育」「福祉」「まちづくり」といった分野に対して、演劇や美術など、アートの特性を活かしたユニークな取り組みを行っている方々を講師にお招きします。

アートがどのように作用して、それぞれの課題を強みや個性へと変えていったのか。そのために必要な学びとは。

参加者のみなさんと一緒に“アートの持つ力”について考えます。

1. 日 時： 平成 31 年 1 月 20 日（日曜日）  
10 時 30 分から 17 時まで（受付は 10 時から）
2. 会 場： 三重県総合文化センター 多目的ホール  
（津市一身田上津部田 1234 三重県総合文化センター内）
3. 内 容： （1） 基調講演：演劇×特別支援教育  
「表現の世界に障害の壁はない」—演劇部 15 年の実践から—  
講師：綿井朋子（奈良県立ろう学校 演劇部顧問）  
助言：山田康彦（三重大学教育学部 教授）  
奈良県立ろう学校高等部生徒 3 名による手話パフォーマンス  
「Star Light」（ミエ・アート・ラボバージョン）を上演

(2) ワークショップ：事例に学ぶ ※①・②選択受講

①演劇×福祉「老いと演劇のワークショップ」

講師：菅原直樹

(「老いと演劇」OiBokkeshi 主宰、俳優、介護福祉士、岡山県奈義町アート・デザイン・ディレクター)

演じることを通して、介護する人・される人が共に楽に気持ちよく過ごすためのちょっとした気づきを得るワークショップです。

②美術×障がい×地域活性化「何となくいい感じってどんな感じ？」

講師：森敏子（子ども絵画教室アトリエ エピ代表、亀山トリエンナーレ事務局長）

アール・ブリュット（※1）に関する事例と共にとコラージュを使って「何となくいい感じ？」を体験します。

（※1）アール・ブリュット（art brut）はポスト・モダンアートの作家であり同時に精神障がい者などの美術作品の収集を進めたフランスのジャン・デュビュッフエ（Jean Dubuffet）が1940年代後半につくりだした用語である。それは「生の芸術」（きのげいじゅつ）と呼ばれ、原初の人間の本質や、最も自発的で個性的な創意に負っている。完全に純粋な芸術活動であり、作者固有の衝動だけから出発している。

(3) テーマディスカッション

「アート教育のこれから。」

2020年以降のアートシーンを地方から考える」

パネリスト：綿井朋子、山田康彦、菅原直樹、森敏子

コーディネーター：吉野さつき（愛知大学文学部 教授）

4. 受講料： 無料

5. 定員： ワークショップ①：30名 / ワークショップ②：40名

6. 申込方法： 事前申込制・先着順

窓口・FAX・Eメール・郵送にて受付

（申込み先は、7. に記載のとおり）

※受付期間 11月1日（木曜日）から2019年1月11日（金曜日）まで

※座席に余裕があれば当日参加可

7. 問合せ・申込み先： 三重県生涯学習センター  
〒514-0061  
津市一身田上津部田 1234 三重県総合文化センター内  
TEL：059-233-1151 FAX：059-233-1155  
E-mail：manabi-kouza@center-mie.or.jp  
ホームページ：https://www.center-mie.or.jp/manabi/

8. その他： (1) 基調講演、テーマディスカッションは手話通訳あり。

(2) 要約筆記の利用、赤外線補聴装置の利用（ホールのみ）などを希望される方はできるかぎり開催日の1か月前までにご相談ください。

※ 調整の結果、ご要望にお応えできない場合もございます。

9. 主催： 公益財団法人三重県文化振興事業団

10. 後援： 三重県教育委員会

11. 助成： 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）  
独立行政法人日本芸術文化振興会

12. 添付資料： ミエ・アート・ラボ 参加者募集チラシ